

翔

百万石蝶談会



NO. 82 FEBRUARY 1990

替り上下向蝶

富山県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査(その2)

中西重雄・野中 勝・野中 充・松井正人

前回のヒサマツミドリシジミの調査¹⁾で神通川の各支流及び庄川から卵が発見され、富山県西部には本種が広く分布することが明らかになった。一方、黒部川以東からは以前より数カ所の産地が知られており²⁾、今回はその空白地帯を埋めるべく、片貝、早月、常願寺川の調査を1989年12月10日に行ったので、その結果を報告する。なお、調査は全てウラジログシより行った。

1) 魚津市虎谷 早月川水系小早月川(標高 300m)

調査地は虎谷から約1 km奥へ入った地点で、ウラジログシが雑木林の中にポツポツ見られたが、一度伐採されているのか、いずれも小木で、林道脇の樹高5~6 mの2本を調査した。前夜の雪が路面に数センチ積もり、またウラジログシの枝の上、芽の回りにも積もっている状態で、手は冷たいし卵は見にくいので下記の結果に終わったが、比較的密度が濃い印象を受けた。

✖ 1989年12月10日 ヒサマツミドリシジミ 22卵

2) 滑川市蓑輪 早月川本流(標高260m)

虎谷から本流に戻り、対岸の崖にかなりの数のウラジログシの大木を発見して調査した。川幅が広く、背後の山も500m弱と常識的なヒサマツの産地とはかなり異なっている印象を受けたが、卵はちゃんと発見された。ただし大木が主で採卵には不向きと思われる。

✖ 1989年12月10日 ヒサマツミドリシジミ 10卵

3) 魚津市黒谷 片貝川本流(標高250m)

片貝川沿いは杉の植林が進んでおり、ようやく黒谷集落の裏山にわずかに残っているウラジログシを発見し調査した。巨大な花芽をびっしりと付けた樹があり、ものの本には花芽を好むと書いてあるにもかかわらず、花芽からは卵はあまり発見されず、枝の先端部の葉芽に好んで産んである様であった。この川幅もかなり広く、斜面のすぐ下には平らな畑地が広がっており、ヒサマツのイメージはますます崩れるばかりであった。

✖ 1989年12月10日 ヒサマツミドリシジミ 21卵
ミズイロオナガシジミ 1卵

4) 上新川郡大山町手出 神通川水系熊野川(標高320m)

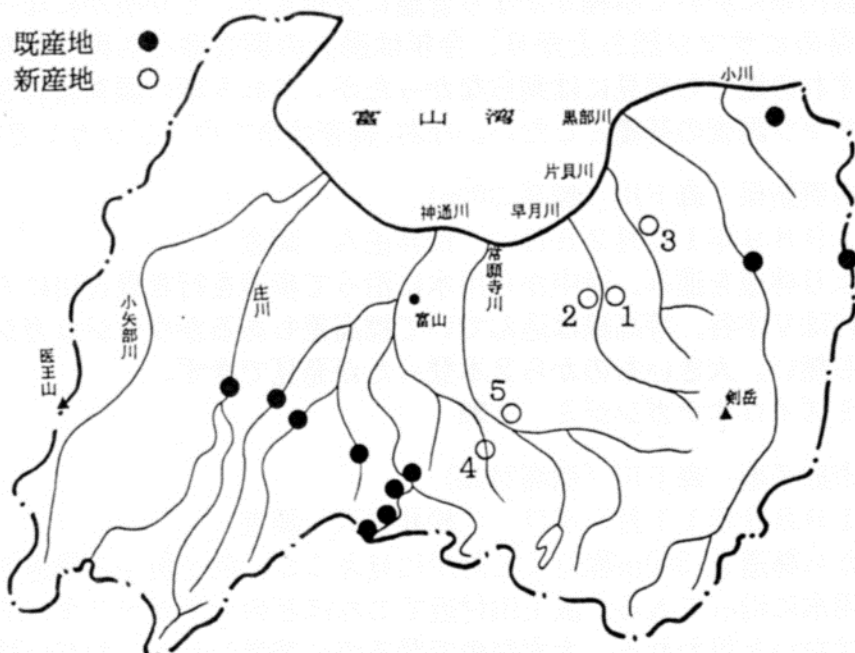
次は常願寺川と、国土地理院5万分の1地形図「五百石」を見て、よさそうな谷を見つけ、そこを目指す。途中で神通川水系であることに気付いたが、かまわず調査。地図から判断した通り、今回の調査地の中では最もヒサマツらしい所だった。

✖ 1989年12月10日 ヒサマツミドリシジミ 25卵

5) 中新川郡立山町千垣 常願寺川本流 (標高320m)

川幅はますます広いが、もうヒサマツはどこにでもいるという気になっているから、暗くなるまで調査。道路沿いは全て杉植林となっている為、一段上を通っている鉄道線を歩き、その更に上に残っている雑木林のウラジログシを調べた。線路脇の高さ2m程の樹からも卵が発見された。

✖ 1989年12月10日 ヒサマツミドリシジミ 6卵



これまで記録が無かったと思われる片貝、早月、常願寺の各水系からヒサマツミドリシジミが発見された。この結果富山県では小矢部川を除く全ての主要な河川からヒサマツが確認されたことになる。1日で未知の場所を5ヵ所訪れ、ウラジログシを求めて走り回るといのは時間的になかなかきつく、各地とも実際に樹上で卵を搜したのは30分程度であった。また、調査した樹の本数の内卵の付いていた本数は ① 2/2 ② 2/4 ③ 3/4 ④ 3/3 ⑤ 2/4 の計 12本/17本であった。以上の事実はこの地域のヒサマツの産卵密度が比較的高い事を示していると思われる。また、片貝川、早月川では海岸近くの低山地にもかなりまとまってウラジログシの見られる所があった。今回は時間的な制約で調査できなかったが、調べてみる価値は充分にあると思われる。

1) 井村正行・他5名(1989): 翔 81 1~2

2) 富山県昆虫研究会(1988): 富山県の昆虫類

《なかにし しげお 〒921 金沢市法島町9-49》

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

《のなか みつる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

石川県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査(その1)

井村正行・指田春喜・澤田 博・中西重雄・野中 勝・松井正人

ヒサマツミドリシジミ(*Chrysozephyrus hisamatsusuanus*)は石川県から発見されていず、隣県の富山、岐阜、福井ではそれぞれ確認されている。石川県での調査は以前から行われているが、発見されないためか報告は少ない。

最近、富山県に於いて本種がかなり普通に分布することが明かになったことから、本県のヒサマツ熱も上がり、今年は過去の調査地へも再び足を運んでいる。いずれの地でも発見には到らなかったが、これを期に調査報告を行い、今後のヒサマツ調査の基礎としたい。なお、調査は全てウラジログンで行った。

1) 金沢市奥新保 森下川(標高 300m)

✖ 1989年10月28日 松井正人 調査

奥新保より林道を進み、途中から用水に沿って歩道を行き豊吉川に入る。山は岩山、谷はV字谷、等高線は込んでいて標高差もあるがウラジログンは少なく、大木も無い。大きいものから2本登ったが発見できず。

ミズイロオナガシジミ 2卵

2) 金沢市砂子坂 森下川(標高240m)

✖ 1989年11月 4日 松井正人 調査

奥新保から林道を 500m程行くと対岸に見えるが、砂子坂から農道を行き、途中から用水に沿って入る。医王山付近でこれほどの大木がまとまって見られるところはないと思われる。大木なので登るのに苦労したが、お互い枝が接近しているため、次々と枝を伝って調査した。発見できず。

3) 金沢市熊走 犀川(標高150~250m)

✖ 1989年10月29日 井村正行・指田春喜・中西重雄・野中 勝・松井正人 調査

過去、幾度となく調査されている所で、谷に沿ってかなりのウラジログンが見られる。今回は熊走付近左岸と、その上流約3km左岸の大木がまとまって見られる所を調査したが発見できず。

ミズイロオナガシジミ 4卵 ウラミスジシジミ 3卵

4) 河内村口直海 直海谷川(標高250m)

✖ 1989年11月 3日 澤田 博・野中 勝・松井正人 調査

手取川との合流部にはかなりのウラジログンが見られるが、人家に囲まれているため、手取第3ダムを渡り、右岸の支沢に入った。ウラジログンは雑木林の中にポツポツ見られ、アカガシと共にまとまって生えている所の数本を調査したが発見できず。

5) 吉野谷村佐良 手取川(標高280m)

✖ 1989年11月 3日 澤田 博・野中 勝・松井正人 調査

手取川は水田にはさまれているが、鍋底状の峡谷で、肩の部分にはウラジロガシの大木も残っている。佐良付近は右岸がそのまま山へと連なっている所で、峡谷へ大きく張り出した大木2本を調査したが発見できず。

6) 鳥越村左礫 大日川から杖川 (標高240~300m)

✖ 1989年11月 3日 澤田 博・野中 勝・松井正人 調査

杖川は地形も急峻でウラジロガシは大日川から続いてポツポツ見られる。今回は鷲走谷分岐付近と、アカガシも見られる左礫付近の川縁で調査したが発見できず。

7) 山中町我谷ダム 大聖寺川 (標高240m)

✖ 1989年11月 5日 中西重雄・野中 勝・松井正人 調査

川沿いにウラジロガシが割りと見られ、発見の可能性も高いことから、これまでも数回調査されている。今回は我谷ダム発電所付近、ダム右岸から100m程上った付近、ダム左岸から300m程下がった付近で15本程調査したが発見できず。

ミズイロオナガシジミ 2卵

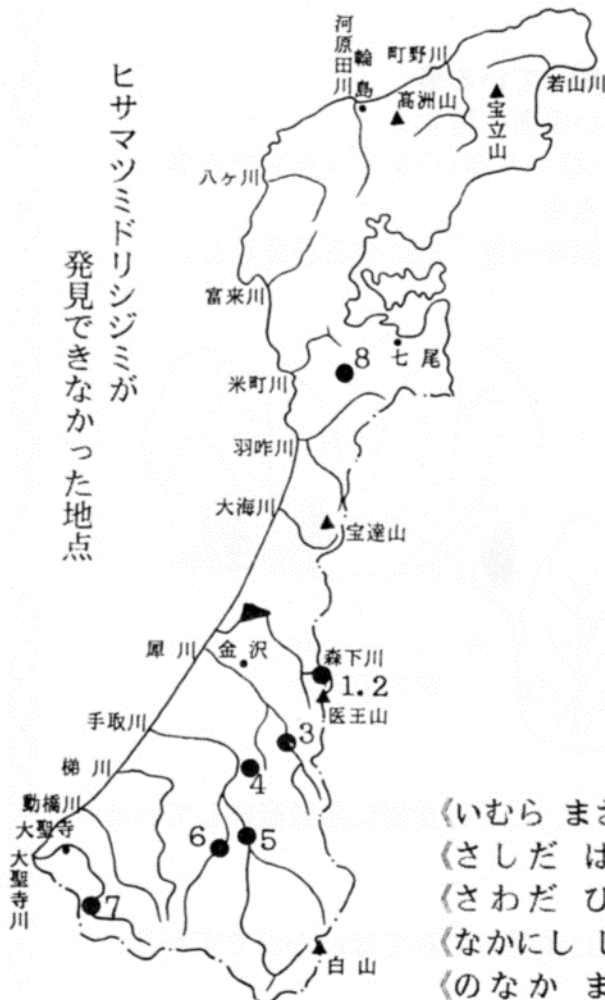
アイノミドリシジミ 1卵

8) 志賀町矢田 (標高100m)

✖ 1989年11月26日

松井正人 調査

能登縦貫道路を穴水に向かって走ると、西山インターを過ぎた辺りから、山肌にチラチラとウラジロガシが見え隠れする。中でも矢田付近、火打谷付近に多く見られ、今回は矢田付近を調査した。ところがウラジロガシと見えたものの半分以上はスダジイで、また大木も無く、調査は3本で止めてしまった。発見できず。



- 《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》
 《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》
 《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引 1-16-11》
 《なかにし しげお 〒921 金沢市法島町9-49》
 《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》
 《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

今年も採卵シーズン到来！

勝 海 雅 夫

会員諸兄の皆様方の中には、採卵よりも穴掘り・崖崩し・朽木破壊なる仕事に精を出している方も、ここ数年増えてはいるものの、アメリカより精鋭トップガンが戻って来た事や、昨年度メスアカミドリ・アイノミドリの豊産なども手伝って、今年もより一層の期待を持って石川県内屈指のゼフィルスが多産地「医王山」に10月22、29日の両日出かけましたので報告します。

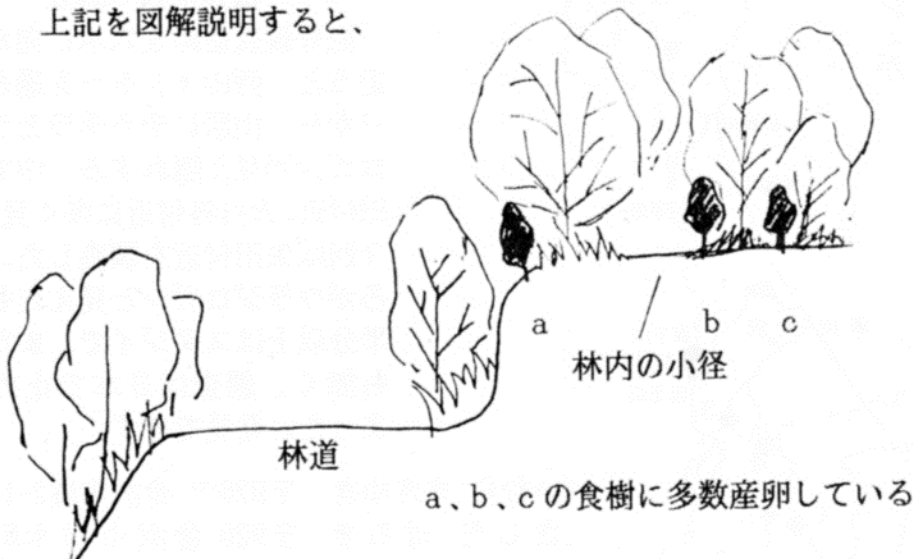
場所は、重山林道分岐から「しがらくび」まで、例年だとウラクロシジミは2ヶタ15卵程度なのですが、今年は何とドドーンと3ヶタは『いけまっせ！！』

採卵のコツは、

1. マンサクという木を知っている事
2. 明るい場所より、暗い場所を捜す事
3. 50cm以下のマンサク(枝でも良い)をセレクトする事
4. 花芽より葉芽を調べる事

以上、至って簡単な方法で採卵可能、木に登る必要なし。

上記を図解説明すると、



今年も暖冬、雪が降る前に頑張ってみてはいかがでしょうか？

白山釈迦林道ヒメハナカミキリ属調査記録(1989)

澤 田 博

1 はじめに

白山釈迦林道は、石川県石川郡白峰村の白山の登山基地である市ノ瀬から別当出合に向かう途中で分岐する林道で、現在では砂防工事専用道路の様相を呈しており、砂防工事の進捗によって高所へ延びつつあり、入口がブナ帯下部の標高950m、上は現在のところダケカンバ帯の約1,800m程のところで終わっている。

ブナ帯の上部標高 1,600m前後のダケカンバが混じってくるところまでが採集可能なところで、それより上は特別保護地区となっている。

松本市の早川広文氏から、北陸地方のヒメハナカミキリ属(ピドニア)の採集依頼があり、1989年の5月28日から、7月31日まで8回の調査に訪れたが(以後マイカー規制のため、調査に行かなかった。)、採集しているうちに、そのおもしろさに引き込まれてしまった。

今年の採集記録を中心に、観察や、考察を記録に留め、整理をしておきたい。

2 ピドニアの訪花植物について

ピドニアの訪花植物については、調査中あまり意識しなかったので明確でないが、参考までに記憶をたどって表にしてみたい。

調 査 日	訪 花 植 物 名
5月28日	ウワミズザクラ、タニウツギ、他
6月18日	ウワミズザクラ、タニウツギ、サワフタギ、ナナカマド類
	ゴトウヅル、他
30日	ゴトウヅル、他
7月8日	オニシモツケ、シシウド、ヤグルマソウ、ゴトウヅル、他
15日	オニシモツケ、シシウド、ミズキ、他
24日	オニシモツケ、シシウド、ノリウツギ、アジサイ類、他
31日	オニシモツケ、シシウド、ノリウツギ、ミヤマイボタ、他

(表1 ピドニアの訪花植物)

ピドニアは、様々な植物に訪花した。一般的に、日陰の花を好み、良く日のあたっている花には、オオヒメハナ、カクムネヒメハナ等限られた種のみが見られた。

ピドニアは、乾燥に弱いと推定されているが、カクムネヒメハナの中には採集時に非常に乾燥していると思われる個体も混じっており、標本作成時に展足がままならないほどであり、この種が乾燥に比較的強いことをこの点からも証明しているように思われた。

タニウツギは、花の中にもぐりこめ、日ざしがさえぎられるためか、日が当たっていても、ミワヒメハナ、セスジヒメハナ、ナガバヒメハナが見られ、春の重要な訪花植物になっているようだ。

同一植物でも標高が上がるに従って開花の期間が遅れ、例えばミズキは、標高1,000mにおいては、5月28日には花が終わっていたが、標高1,500mにおいては木も矮性になり、7月15日に開花していた。

訪花植物の中で最も重要なものは、オニシモツケで、標高が低いところのみ生息するとおもわれるセスジヒメハナ、ニセヨコモンヒメハナ、イヨヒメハナ以外の種は、全てこの花で採集され、個体数も極めて多い。

3 ピドニア種別の採集記録

5月20日前及び、8月以降のデータがないため、全体として不完全であるが、ピドニア種別の採集記録を早く採集された順に（表2）にまとめた。

採集総数は852頭で、種類別に見ると、ムネアカヨコモンヒメハナ262頭(30.8%)が圧倒的に多く、マツシタヒメハナ130頭(15.3%)、カクムネヒメハナ115頭(13.5%)、ミワヒメハナ76頭(8.9%)と続く。

少ない方では、イヨヒメハナ1頭、ヒメハナ11頭、ハクサンヒメハナ15頭である。フタオビノミハナは18頭となっているが、採集しなかった個体があり、実際は少なくない。

雌雄別にみると、雄531頭(62.3%)、雌321頭(37.7%)で雄の方が多く、一般的には雌個体の方が大きく、捕らえられる確立が高いと考えられることから、何か理由があると考えられる。種別にみると、総数で1位、2位、3位のムネアカヨコモンヒメハナ、マツシタヒメハナ、カクムネヒメハナが、それぞれ雄が雌を大きく上回っていることがわかる。

6月30日を境に、春出現型(セスジヒメハナ等)、春夏出現型(ミワヒメハナ等)、夏出現型(オオヒメハナ等)に区分できそうである。標高との関連から、それぞれが低山、低中山、中高山に生活中心を持つ種のように見えるがどうであろうか。

最後に、多数の貴重な参考データを提供していただいた、野中 勝氏にお礼申し上げたい。

(注1) 6月18日以降は、個体数から見た種類構成、雌雄の別、個体数の増減を知るために、できるだけ全部を採集するよう努力した。

(注2) 表中(+)は、確認されたが計算に含めないものである。

(注3) カクムネヒメハナの中に、窪木リによって別種である可能性が指摘されたツマグロヒメハナと思われるものをかなり含むが、表2ではカクムネヒメハナとして計算している。詳細は別稿に譲りたい。

種 名	性	5/20	28	6/3	18	25	30	7/8	15	24	31	計
<i>Pidonia amentata</i>	♂	1	1	3	3		4					12
セスジヒメハナ	♀		2	3	2	+	1					8
<i>Pidonia miwai</i>	♂	1	+	1	2	+	11	7	12	3	3	39
ミワヒメハナ	♀	1	+	3	4		2	10	14	1	2	37
<i>Pidonia signifera</i>	♂	1	1	2	5		7	13	10	1	1	41
ナガバヒメハナ	♀				4		4	2	7	1		18
<i>Pidonia mutata</i>	♂		3						1			4
ヒメハナ	♀				3		1	2	1			7
<i>Pidonia puziloi</i>	♂				2			2	5	4	+	13
フタオビノミハナ	♀				1			1	2	1	+	5
<i>Pidonia hylophila</i>	♂				1	+						1
イヨヒメハナ	♀											
<i>Pidonia simillima</i>	♂				13	+	3			1		17
コキヨコモンヒメハナ	♀				7	+	14					21
<i>P. discoidalis</i>	♂				16		1		1	1		19
キベリクロヒメハナ	♀				9			1	2	2		14
<i>Pidonia aegrota</i>	♂				5		6	2	9	3	3	28
チャイロヒメハナ	♀				3		2	1	3	1	1	10
<i>Pidonia masakii</i>	♂				4		13	40	62	16	20	155
ムネアカヨコモンヒメハナ	♀				2	+	14	23	46	18	4	107
<i>Pidonia bouvieri</i>	♂				1			16	8	24	34	83
カクムネヒメハナ	♀						1	10	7	9	5	32
<i>Pidonia grallatrix</i>	♂						1	2	2	3	10	18
オオヒメハナ	♀					+	4	4	7	3	2	20
<i>P. matsushitai</i>	♂						4	29	41	16	5	95
マツシタヒメハナ	♀						2	7	19	5	2	35
<i>P. o. hakusana</i>	♂						3	3	1		1	8
ハクサンヒメハナ	♀					+	1	6				7
合 計	♂	3	5	6	52	+	50	114	154	73	74	531
	♀	1	2	6	35	+	46	62	114	41	14	321

(表2 ピドニア種別の採集記録)

〈参考文献〉

- 1) 窪木幹夫(1986) カクムネヒメハナカミキリ種群の分布について
昆虫と自然 (Vol.21 No12):13~17

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

ベニシタバを金沢市俵で採集

野 中 勝

ベニシタバ (*Catocala electa*) を下記の如く採集したので報告する。

1989年7月15日 金沢市俵 ベニシタバ 1♂ 野中 勝

嵯峨井(1987)によれば、本種はこれまでに石川県下では吉野谷村、尾口村、白峰村から記録されており、採集例も8～9月に限られていた。一般に発生期の遅い蛾と考えられている様であるが、当日は他にスポーツセンターにてキシタバ1♂が見られたのみで、この付近に多いコシロシタバ、オニベニシタバなどの姿はまだ見られず、医王山に限って考えるならば本種の発生は意外に早いと言えよう。ムラサキシタバについても医王山では飛び抜けて早い記録が知られており(嵯峨井、1987)、カトカラの発生期に関しては、医王山と白山麓を別々に考える必要がありそうである。ちなみにこれまで多数の人が訪れているにもかかわらず得られなかった事から、翔74号の7ページの医王山のカトカラ採集難易度表には、ムラサキシタバと並んでAランクに書き加えられるべきものと思われる。

文 献 嵯峨井淳郎(1987):翔 63 1～10

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

Self introduction

腰 本 文 子

自宅 〒920 金沢市石引4-10-11 ☎ 0762-24-3663
B型 3月3日生まれ フリーライター

産地は群馬県沼田市。自然がいっぱいの土地に育って、ものごころついた頃から、虫に興味を持つようになりました。

20代前半に八重山の魅力にとりつかれ、イリオモテと聞いただけで、胸がときめく始末です。3度目の西表でうっかり網に入ってしまったヒト科1♂は、虫屋にあらず。蓋を開けて見れば富山の人間で、結婚を機に私も北陸の住人となりました。今は仕事の間である金沢と富山県新湊市を行ったり来たりの日です。

元来がズボラな性格のため標本収集にはあまり熱心でなく、近頃は、ネットの代わりにカメラを持ってフィールドに出ることもシバシバ。会員の皆さんの中には、その道の達人も多いと聞き、ぜひ御指南いただけたらと思っています。また、北陸に生息する蝶類についてもまだまだ無知なわたくしめ。皆さんの貴重な体験談を、折りにふれ、お聞かせ願えれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

《こしもと ふみこ 〒920 金沢市石引 4-10-11》

1989年蝶談会10大ニュース

12月8日の例会に於いて、ノミネートされた12のニュースの中から、会員1人が3票を投票し、得票数の多いものから順位を付け、得票数が同じものは同位としました。

✖ 1位 アサマシジミのギナンドロモルフの羽化

吉村久貴氏が富山県上市町馬場島で採幼したものの中から羽化したもので、完全雌雄分離まではいかないまでも、大変きれいな個体です。[80]

✖ 2位 ギフチョウ初見記録の更新

これまでの初見記録は、1958年と1987年の3月21日 だったが、今年は稀にみる暖冬で、一挙に7日も早くなった 3月14日 に小松市で松井泰子さんによって1頭確認された。[76]

✖ 2位 シータテハ幼虫の観察

県内にシータテハは少なく、これまでもわずかの成虫しか観察されていなかったが、松井正人氏により、白山釈迦林道においてオヒョウより終齢幼虫2頭が観察された。[78]

✖ 4位 ピドニアフィーバー

オサムシ熱、野生ラン熱が冷えていく中で、ピドニア熱が密かに高まってきた。今のところ1人を除いてまだ微熱に過ぎないが、この先どうなるかは分からない。実績にムネモンヒメハナカミキリの記録の確認がある。[80、81]

✖ 5位 ゼフィルス各種をサクラで飼育

ゼフィルスは何時の時点でバラ科食を獲得したのか？ この謎を解くために、野中 勝氏はブナ科食で知られる、ミズイロオナガシジミ、アイノミドリシジミ、ジョウザンミドリシジミ、ウラミスジシジミをキンキマメザクラで飼育し、ジョウザン以外は羽化に至った。これについての興味深い考察もある。[80]

◎

10大ニュースの順位の投票を行う前に、連勝単式勝馬投票よろしく、1位と2位の予想投票を行い、予想がくれば次年度会費の1人分を会で負担するということにしたところ、各自の予想は、次の4枠になり、

(1)ギフ-アサマ (2)アサマ-ギフ (3)アサマ-シータ (4)ピドニア-アサマ

蓋を開けるとギフとシータが同位で、2枠と3枠がきたことになって、以下の4人が栄光の配当を受けました。

井村正行氏、 勝海雅夫氏、 竹谷宏二氏、 指田春喜氏

◎

◎

✖5位 ゼフィルス豊卵

またそろそろ、ゼフィルスが増えてきた感がある。今年はまず、ウラクロ、ウスイロが多いようで、平年の5～10倍の量らしい。〔82〕

✖5位 昆虫写真館OPEN

金沢のオフィス街にあるカレーショップ「ラサ・サヤン」を会場に、1月から田辺幸雄氏が旬変わりで生態写真を展示している。(76)

✖8位 スギタニルリシジミを浅野川水系で記録

これまで犀川以南の記録しか無かったが、金沢市横谷に於いて野中 勝氏により1♂が記録された。これで広く医王山山塊をも調査する意欲が湧くというもの。〔77〕

✖8位 ギフチョウを宝達山で目撃

4月29日、最も近い産地からも17km離れた宝達山のお池付近で、ナカオ山岳会の林 正一氏により1頭目撃された。宝達山付近のカンアオイ類はフタバアオイしか知られず、後日調査したが、卵、食痕ともに発見できなかった。何処かに知られざる産地があるのか、それとも全くの偶産か今後の調査に期待が持たれる。(77)

✖10位 フジミドリシジミのツマグロタイプの再記録

ツマグロタイプは医王山にしか出現せず、これまでに3♂しか知られていなかったが、再び医王山に於いて勝海雅夫氏によって1♂追加された。(80)

末尾の〔 〕は発表された翔の号数を示し、()は「会員の動き・しゃばの動き」を参照。

1989年収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金 額(円)	項 目	金 額(円)
1989年度会費	86,000	会誌作成費	126,188
1987、88年度会費	14,000	例会費	12,000
会誌売上費	30,640	助成費	7,000
郵送負担金	8,500	郵送費	19,751
前年度繰越金	20,645	消耗品費	2,340
次年度繰入金	7,494		
計十	167,279	計十	167,279

備 考

*1987年度会費 完納

*年会費 2,000円

*1988年度会費 未納1人

*郵送負担金 500円

*1989年度会費 未納3人

会員の動き・しゃばの動き

❶金沢大学角間キャンパスに続く県道の街灯に、トンボのマークが付いているのをお気づきですか。これは金大移転にともなって作られた、若松・角間地区のシンボルマークで、郷愁を誘う大きな木と赤トンボをデザイン化したものらしい。

❷諸道氏、新車を購入し来春の採集活動に備えている。ランドクルーザーロングボディーのフル装備で、どんな猛獣が出てきても大丈夫だとか。

❸勝海氏、医王山でウラクロをバカスカ採っている。例年の10倍は採れるらしく、3時間で120卵とか。ウスイロ、エゾも多いらしい。

❹12月3日奥能登オオムラサキ調査PartⅢ。高洲山を惣領口から攻めるがゴマダラばかり。ところがなぜかゴマダラすら少ない。

❺12月9日井沢・嵯峨井コレクション見学会。井沢氏が仕入れ、嵯峨井氏が開いた東南アジアの蝶、ざっと70～80箱を眺めつつ、酒盛りをする。この蝶、近々井沢氏の都合で、金沢から運び出される。

❻野中氏、標本の一時預かり所を捜している。増えすぎた標本箱に頭をかかえ、10箱1年単位で引き受けてくれる人を捜している。標本閲覧は自由、防腐剤の世話もしなくて良く、ただ置かせてもらうだけでいいと本人は強調していた。

❼金沢市が自然とふれあい、親しむためのミニガイドブックを発行。その名も「かなざわの自然」で、各方面から金沢の全容がつかめる。

❶12月10日富山ヒサマツ調査PartⅡ。前日に降った雪で、ウラジログシも真白。合羽で完全武装し木に登るが、手は冷たいし芽は氷っていた。しかたなく1芽づつしゃぶって調査。

❷12月17日野中氏、富山県は桜ヶ池でオサ堀り大会。マイマイ、クロナガ、アキタ、マヤサンを掘る。なお参加者は2名。

❸12月24日奥能登オオムラサキ調査PartⅣ。高洲山を菰沢口より入り、文献を頼りに通称赤坂付近を調査。やはりゴマダラばかり。

❹12月31日野中氏、キリシマ豊産の噂に載って丹沢へ。やはり噂は噂で、1日つぶして約50卵と少なかった。

❺指田氏、お正月は展翅三昧。年末年始は何処かのジャングルで網を振っているのが常であったが、寄る年波には勝てず、こんなことになってしまった。

❻井村氏、12月に溜った疲労とストレスが正月一挙に吹き出し、1週間程腹を押さえてのた打ち回った。潰瘍ができてるらしく、現在コーヒー、カレー、たばこ、酒を断っている。

❼蝶談会四国支部がOPEN。かの山本氏が、このほど四国支店長を命ぜられ、徳島市応神町に支部を構えた。お気に入りのゴマシジミでも持ってけば、いたせりつくせりで四国中を案内してくれるよ！

❶今年も暖冬？ チラホラとヤマザクラ満開のニュースが耳に入ってくる。このまま行くと、今年のギフも早いかもね!?

❶ 1月14日野中、中西、井村のオサ掘り3人衆、雪降る中を新潟は上下浜へ。大騒ぎしながら、セアカ72頭、エゾカタビロ1頭を掘り出す。

❷ 1月15日富山ヒサマツ調査PartⅢ。子守りも兼ね庄川上流にアタック。雪で真っ白の木々に恐れおののいていたが、川面付近は雪が付いていず、安心して調査。ヒサマツ発見。

❸ 1月21日井村、中西、野中の3氏、新潟でのセアカ大量掘り出しに元気を得、今回は福井市内の九頭竜川河川敷へ。ところがサクサク掘れる砂地は、皮算用と共にサラサラと崩れ、セアカどころかオサムシは何にも出てこなかった。

❹ 勝海氏、3月10日から沖縄へ採集に行くらしい。どうも2人で行くらしい。相手は戦力が虫屋並にUPした例の彼女とか。そう言えば3月に

結婚するとか言っていたなあ。これって新婚旅行のことかなあ…

❺ 来る2月12日に大阪で開かれる予定の第19回インセクト・フェアが中止になった。事務局は法違反標本に頭を抱えているが、出品者がモラルを守れば済むこと。こんな事で楽しみをつぶしたくない。

例 会 の 記 録

12月8日(金)城南管工2Fにて8時より開催。12月例会は恒例の10大ニュースを決定(別記)。

順位の決定に際し、各自1位と2位の予想投票をしたのち、1人3票を持って投票し、得票数の多いものから順位を付け、予想が当たると次年度会費がタダになることになりました。

出席は、指田、小幡、上田、勝海、野中、中西、松井、竹谷、井村の9名。

目 次

中西重雄 他3名：富山県に於けるヒサマツドリツミの分布調査(その2)	1
井村正行 他5名：石川県に於けるヒサマツドリツミの分布調査(その1)	3
勝海雅夫：今年も採卵シーズン到来！	5
澤田博：白山釈迦林道ヒメハナカミキリ属調査記録(1989)	6
野中勝：ベニシタバを金沢市俵で採集	9
腰本文子：Self introduction	9
編集部：1989年蝶談会10大ニュース	10
編集部：会員の動き・しゃばの動き	12
編集部：例 会 の 記 録	13

とぶ NO.82

1990年2月2日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所